

縄文時代から
脈々とつながる現在
そして未来へ

今年10月に10周年を迎える上野原縄文の森。この上野原縄文の森を支援するボランティアグループ「どんぐり倶楽部」は、来館者に向けた遺跡ガイドや体験活動などを行い、ただ見て回るだけでは分からない深い魅力を伝えている。倶楽部の会長を務めるのはガイド歴14年の益山博美さん。「故郷にあつて自然も多く、観光や教育にも生かせる上野原遺跡が大好き」と笑う益山さんの、ボランティア活動や地元に対する思いを伺った。

上野原縄文の森支援友の会 どんぐり倶楽部

会長 ます やま ひろ み
益山 博美さん

Hiromi Masuyama

ボランティアガイドを始めたきっかけは？

社会人になってから自然や遺跡に興味を持つようになり、日本の吉野ヶ里遺跡や西都原古墳群、桜町遺跡、フランスのモンサンミッシェルなどさまざまな場所に出かけるようになりました。人間の一生とは比べ物にならないくらい積み重ねてきた長い歴史に、すごくロマンを感じるんですね。

昭和61年から上野原遺跡の発掘調査が始まり、平成9年に国内最古・最大級の約9500年前の集落跡が発見されたのを機に見学希望者も増えたため、地元の商工会議所がボランティアガイド養成に乗り出し、希望者を募集していたのがきっかけです。身近に出現した日本最古級の遺跡にわくわくしていましたし、ガイドとして関わることで社会貢献にもつながるんじゃないかと思いました。



私の本業は不動産業ですが、ガイドではまた違う人たちとの触れ合いがあります。日本全国からいろいろな世帯の人が来られますし、遺跡への関心度合いもさまざまです。私たちガイドスタッフは、どの来館者にも同じように解説することを心掛けています。突出した個性を出すことはありませんが、質問には答えられるよう勉強を重ねています。屋外施設を案内するので季節や天候の影響を受けて大変なときもあります。最後に「ありがたい」「よく分かりました」と喜んでいただけると本当にうれしいですね。

「どんぐり倶楽部」ではどんな活動をしていますか？

平成14年、上野原縄文の森のオープンと同時に「どんぐり倶楽部」が発足し、現在は会員62人・賛助会員10人が上野原縄文の森の職員とも協力しながら、年間を通じて体験活動やイベントなどを企画・実施しています。

例えば夏は竹を使ったそうめん流し、秋は十五夜まつり、年末には縄で正月飾りを作ったりしています。季節の行事を大切にしながら、アウトドアの楽しさや古代人の暮らしを感じられる要素を盛り込んで誰もが楽しく参加できる内容にしています。昔からの伝統を伝えたり学校では学べない体験を通して、子ども

たちの心に残る思い出作りのお手伝いできればと考えています。

また、年2回「どんぐり倶楽部通信」を発行し、活動の報告や今後の予定などをお知らせしています。私自身、上野原遺跡の大ファンを自負しているので活動には大変やりがいを感じています。これからもガイドを通じて、遺跡はもちろん、霧島市や鹿児島県の魅力を広めていきたいと思っています。

ボランティア経験で自身の考えに变化はありましたか？

これまで以上に、遺跡や歴史、自然に興味を持つようになりました。霧島市をはじめ、鹿児島県はこのような彩りが非常に豊かだと実感しています。また、平成20年から霧島市が始めた「霧島しつちよいどん」(※1)というボランティアガイドにも参加しており、こちらでは市の要請により霧島神宮のガイドをしています。はるか遠い太古の時代や歴史に思いを馳せることができるボランティアガイドの仕事は、私にとって幸せな時間。そのたびに心に刺激をもらっているような気がします。

平成22年から、どんぐり倶楽部の会長として倶楽部全体の活動に目を配る立

場になりました。これまで以上のやる気はもちろん、まとめ役としての視野の広さも養われたように思います。加えて、ボランティアガイドの後継者についても考える機会が多くなってきました。世界に誇れる遺跡が地元にあることを若い世代にも実感してほしいと思い、今秋開催される「縄文シティサミット」(※2)に向けて、地元中学生によるガイドも立ち上がりました。来館者に喜んでもらえるのはもちろん、子どもたち自身も楽しんでるようです。この経験が、子どもたちの未来に少しでも役立つくれたらうれしいですね。

※1 「しつちよいどん」は鹿児島県で「物知りな人」の意味。

※2 「縄文シティサミットinぎりしま」は平成24年10月13日・14日開催。全国8市町が集まり、縄文文化や遺跡をまちづくりに活かす方策を練るのが目的。



どんぐり倶楽部では、一年を通じてさまざまな活動を行っている。写真はふれあい体験「アウトドア料理に挑戦!」の様子。